

“ 幼児教育と科学 ”

園長 高杉 洋史



ブルーサルビアに集まる昆虫たち

人は何歳になっても変化するもの
 です。ね。学生時代に叩き込まれた思
 考パターンは科学の基礎で、事実の積
 み重ねに基づいた考察や実験の再現
 性など、『科学的』といわれること
 の基本的なことを学びました。最近
 『こころと脳の対話』（河合隼雄・
 茂木健一郎著）を読み、科学性の上
 に人と人との関係性とか偶然性の大
 切さを学びました。このことが分か
 るにはセンシティブティ（感受性）
 とか『気づき』の感覚が重要です。
 新しい科学の一つの方向でもあり、
 教育に欠かせない視点です。具体的
 には事例研究の大切さです。科学的
 世界では一つの例は、「それは一例
 です。ね」とか「珍しい例です。ね」で
 終わり、相手にされません。そこで
 同じような例を集めて、普遍性があ
 るように表現します。たとえば統計
 を使って「有意差があります」と言
 う表現は「有意差があります」とい
 うところから「この事例」なん
 ころと脳の対話』には一つの事例が
 ものすごく大事だということの普遍
 性を示しています。事例研究の持つ普
 遍性は科学の文章では何が言いた
 いのか、拙い私の文章では何が言
 わねえ、わかっていないでしようか
 幼児教育の世界も研究報告がたい
 変わりつつあることを報告したい
 けません。特に因果関係をとりたい
 けないことです。大切なお伝えたい
 すよ、因果関係を考えることも大切
 です。そればかりです、念のため。

子どもたちの行動を分析したり解
 したりもするけれど、それだけでな
 く Appreciate 文学や音楽を味わう
 しむように、することが大切なのだ
 そうです。今回も子育てを楽しむま
 しょうといういつものパターンで終
 わりました。



おまけ

次の4つの引き算をさっと解いてみてください。

- 1 - 1 =
- 4 - 1 =
- 8 - 7 =
- 15 - 12 =

では次に、12から5までの間で、頭の中に浮かんだある数を
 ひとつ選んでください。

その数は、7ではありませんか。
 私たちは頭がいいのか（12-5を勝手に計算してしまう）、
 はたまた影響を受けやすいのか（頭が引き算モードになって無意識で12-5引き算をしている）？